

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 科 目	初等教育英語教育法	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語教育に関する基本的な知識として、学習指導要領、主教材、小・中・高等学校連携と小学校の役割、児童や学校の多様性への対応についての理解を深める。 ・子どもの第二言語習得に関する基礎的な知識として、「言語使用を通じた言語習得」「類推から理解へ」「受信から発信へ、音声から文字へ」などの特徴についての理解を深め、それらを生かした指導ができるようにする。 ・授業実践における基本的な指導技術を身に付けるため、英語での語りかけ方、発話の引き出し方、やりとりの進め方、文字言語との出あわせ方、読む活動・書く活動への導き方などを学び、指導に生かせるようにする。 ・題材の選定、教材研究、指導計画、外国語指導助手（ALT）とのチーム・ティーチング、ICT活用、評価などに関する知識を深め、実際の授業づくりにおいて生かすことができるようにする。 ・知識・理論を受動的に学ぶだけでなく、授業観察（授業映像の視聴）や授業体験、模擬授業などの活動を通して、児童と授業者双方の立場を疑似的に体験しながら、実践的な指導力や授業づくりの力を養う。
	国際理解教育概論	<p>地球時代・多文化共生社会が、教育にもたらす変化について多様な事象を素材に論説する。また、国際理解教育に関わるさまざまな論の検討を通して国際理解教育の概念を考察し、論ずる。国際理解教育の理論・実践研究の経緯と最新の状況について、多様な論文・実践事例を紹介しつつ解説する。さらに、多様な人々との共生に不可欠な技能としての対話力の重要性を論じ、実習により技能を習得させる。</p> <p>地球的課題についてアクティヴィ・ラーニングを多用し、グループが協同する調査をさせ、21世紀型能力が示す、深い思考力、主体性、対話力の育成を目指す。</p>
	ICT活用教育概論	<p>インターネットの発達とタブレット端末の登場により教育の情報化が進展し、新しい学習指導のあり方が求められている。本講義では、これまでの視覚教育の歴史を踏まえ、学校教育におけるICT活用の意義、目的、特長を理解し、タブレット端末や電子黒板等のICT機器、デジタル教科書や教育用アプリケーションの活用について、習熟、説明、提示等の視点に基づき、各教科の具体的な実践場面を取り上げて講義する。学習指導案作成や模擬授業を通して、小学校および中学校におけるICTを活用した学習指導法を習得する。またICTの両輪としての情報モラル教育にも留意する。本学の授業支援システムのは随時関連する資料やデジタル教材をアップしている。電子黒板やタブレット端末を備えたメディアルームと合わせて活用し、ICT活用の技能も確実に習得する。</p>
	「チーム学校」と 学校組織マネジメント	<p>本授業は、グローバル化が進展する現代において、学校が「チーム学校」としてより成果をあげるために必要な組織マネジメントの考えを学び、教員相互や地域と連携・協働した有効な学校改善や授業改善のための基礎となる力量を養うことをテーマとする。「学校における組織マネジメントとは何か」「なぜ今、学校において組織マネジメントが求められるのか」「カリキュラム・マネジメントがなぜ重要なのか」「なぜ学校はチームでなければならないのか」「なぜ教員に多様な人材との協働が求められるのか」などについて、小学校や中学校での具体的な事例を取り上げ考察するとともにその背景にある考え方についても学ぶ。それらのことを通して①学校における組織マネジメントの必要性や重要性について理解すること、②校内での教員相互や地域と連携・協働した「チーム学校」のあり方について考えたり、自分なりに構想したりすることができること、③学校組織の一員として求められる資質・能力について考え、これからの自己の成長に生かそうとすることができること、④教育課題についてのグループワークや討論等を通して、協働的に学び合い、高め合うことができること等を授業の到達目標とする。</p>
	特別支援教育総論	<p>特別支援教育では、特別支援学校、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校等において、様々な障害のある幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な支援が求められている。そのため①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組み、②特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の理解と支援方法、③個々の幼児児童生徒の実態を適切に把握する方法（面接、直接観察、各種心理検査）及び目標設定、手立てを概説し、④その基礎的な知識を基に、個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成することを実施する。</p>